

令和元年11月15日  
(2019年)

吹田市立青山台小学校  
校長 植村 誠

保護者の皆さま

## 平成31年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成31年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月初旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

### 1 教科に関する調査の分析

#### ◆国語《概要》

平均正答率は全国値を上回っている。無解答率はやや低い。

#### 《各領域における成果と課題》

##### 話すこと・聞くこと

\* 平均正答率は全国値並み。

\* 「目的に応じて、質問を工夫することができるかどうかをみる」問題では、ほぼ全国値同様低くなっている。

\* 「インタビューの様子から話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることができるかどうかを見る」問題では、全国値を下回り、無解答率も全国値同様高くなっている。条件に合わせて要点を掴む記述式の設問に課題が見られる。

##### 書くこと

\* 平均正答率は全国値をやや上回っている。

\* 「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」について、全国値を上回るものの、正答率は低く、記述式の設問に課題がある。

##### 読むこと

- \* 「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができるかどうかをみる」、問題において、疑問に対する答えを資料から解決する設問については全国値を上回りにできているが、資料の中から情報を整理し因果関係となっているものを選択する設問については全国値を大きく下回っているため課題が残る。
- \* 「目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むことができるかどうかをみる」問題では、全国値を上回りよくできている。

#### 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- \* 「学年別配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題では、いずれも全国値を上回っている。しかし、同じ読みでも意味が違くと漢字が変わる問題では他に比べ、正答率が低い。
- \* 「文と文の意味のつながりを考えながら、接続詞を使って内容を分けて書く」問題では、全国値をやや上回っていたものの、無解答も多く、課題が見られる。
- \* 「ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかをみる」問題では、全国値を上回りできている。

#### 《国語科における今後の指導改善点》

- ◇国語科に留まらず、自分の考えや感想をその根拠を明確にしながら条件に合うように書く課題を多く設定する。
- ◇調べ学習を通して、既有的知識や経験等を基に、予想・推測を働かせ、自身の考えと比較しつつ情報を取捨選択する力を身につけさせる。また、その情報を誰にどのような目的で伝えるのかを明確にし、内容を整理して書くような活動を行う。
- ◇図表やグラフの特徴を知った上で目的に応じて適切な図表やグラフを作成したり、本や文章から引用して用いたりする活動課題を取り入れる。
- ◇文と文のつながりを意識させ、文末表現を整えつつ接続語を適切に扱いながら要旨を掴む活動の設定をする。
- ◇文章量の多い課題に慣れさせ、設問課題を最後まで読み何を問われているのか自身で整理できるようにする。
- ◇漢字の各々の意味を理解した上でその言葉の意味を考える必要がある。実感を持って捉えたり使ったりできるようにし、語彙を増やして表現を豊かにする。
- ◇意見交流する場を多く設け、話の展開に沿った質問の仕方を具体的に示すことや話し合いの方法など相互に伝え合う活動や発言の意図を相手に分かりやすく伝える学習を取り入れる。

#### ◆算数《概要》

平均正答率は全国値を上回っている。無回答率は低い。

#### 《各領域における成果と課題》

## 数と計算

- \* 平均正答率は全国値を上回っている。
- \* 「示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し適用することができる」については、正答率は全国値を上回っている。
- \* 「示された計算の仕方を解釈し減法の場合を基に、情報に関して成り立つ性質を記述できる」や「示され除法の式の意味を理解している」については、全国値は上回っているが、正答率はそれほど高くない。

## 量と測定

- \* 平均正答率は、全国値を上回っている。
- \* 「示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる」については、正答率が全国値を上回っているものの決して高くなく、式や図から言葉や式に結びつけられず課題が見られる。

## 図形

- \* 平均正答率は全国値とほぼ同じである。
- \* 「台形について理解している」では、正答率が全国値を下回っており、大阪府の平均正答率と同じである。

## 数量関係

- \* 平均正答率は全国値を上回っている。
- \* 「示された除法の式の意味を理解している」では、全国値は上回っているが、正答率はそれほど高くない。

## 《算数科における今後の指導改善点》

- ◇ 基礎的な計算力や知識は身に付いているが、活用に関する問題にはつまずきが見られる。今後は、計算問題だけでなく発展的な問題にも取り組ませたい。
- ◇ 基礎的な計算は概ねできているが、初歩的な位のミスや計算ミスが見られる。授業や宿題で引き続き練習したり、見直したりする習慣を付ける。
- ◇ つまずきのある児童については習熟度別授業や個別の対応をさらに進めて、定着を図っていく。

## 2 児童質問紙の結果 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

### 家庭生活のこと

- \* 「朝食」を食べていると答えた児童は約 9 割であるが、全国値を下回っている。
- \* 家で計画を立てて勉強ができていると答えた児童は約 6 割であるが全国値を下回っている。
- \* 将来の夢や目標があると答えた児童は約 8 割である。
- \* 物事を最後までやり遂げてうれしかった経験があると答えた児童は 100% である。
- \* 難しいことに挑戦していると答えた児童は約 8 割で全国値を上回る。

- \* 家で全く勉強をしないと答えた児童はいなかったが、平日一時間以上の勉強をできている児童は約 5 割で全国値を下回っている。
- \* 学校の授業以外の読書時間が 10 分未満の児童が 5 割を占めており、図書館をほとんど利用しない児童は約 7 割である。
- \* 読書が好きと答えた児童は約 7 割で全国値を下回る。
- \* 住んでいる地域の行事に参加している児童は 7 割で全国値を上回っている。
- \* 地域や社会をよくするために何か考えたことがあるという児童は 4 割で全国値を下回っている。

### 【家庭生活分析】

計画を立てて勉強ができている児童は、半分程度で勉強を一時間以上できている児童も半分程度である。また、読書活動に関しては半数の児童がほとんどできておらず図書館の利用率も低い。

一方で 8 割の児童が将来の夢や目標を持って多く、難しい目標に挑戦したことがある児童、達成感を得たことがある児童も多い。

### 学校生活のこと

- \* 学校に行くのが楽しいと答えた児童は約 7 割で全国平均を下回っている。
- \* 学校の決まりを守っていると 9 割以上の児童が答えており全国値を上回っている。
- \* 人の役に立つ人間になりたいと考える児童は約 9 割である。
- \* 「国語の授業は好きだ」と答えた割合は、全国値を下回っている。
- \* 「国語の授業の内容はよくわかる」と答えた児童の割合は約 9 割で全国値を上回っている。
- \* 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と答えた割合は、全国値を下回っている。
- \* 「国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫している」と答えた割合は、全国値を下回っている。
- \* 「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」と答えた割合は、全国値を下回っている。
- \* 「算数の内容がよくわかる」と答えた児童の割合は約 9 割で全国値を上回っている。

### 【学校生活 分析結果】

いじめがいけないことであると 9 割超の児童が答えており、全国平均との差はないが、そう思わないと答えた児童が一部存在しているということを懸念し、児童全員がいけないことだと共通認識を持てるように指導する必要がある。

人の役に立ちたいと考えている児童が多く、学校の決まりを守っている児童も多い。算数や国語の内容がよくわかると多くの児童が答えている。

しかし、4分の1の児童が学校に行くのが楽しくないと思っており、国語も算数も「好き」と答えた児童の割合が全国値と比べるとあまり高くない。今までに学習してきたことを学習や普段の生活の中で生かそうという意欲が低い児童もいる。

今後は、既習事項を生かして学習に取り組みせ、自分たちで課題を解決することを通して達成感を感じさせるような授業作りを行っていききたい。また、互いの意見や工夫している点を認め合わせることを通して、ともに学び合う楽しさや教科学習の楽しさを味わわせていききたい。

### 3 課題及び今後の取り組み

◇教科に関する結果を踏まえ、本校では、授業のめあてやねらいを明確にし、内容に沿ってしっかりと評価し、次の授業に生かす取り組みを進める。また、資料の読み取りや自分の意見をまとめ表現するなど、児童の主体的、体験的な活動を増やし、児童が進んで取り組む授業の工夫や、学ぶ意欲を高める授業づくりを進めていく。

◇本校では、算数の少人数指導を3～6年まで実施し、個に応じた指導の充実を図っています。また、つまずきのある児童への指導についても個別に行い、基礎的な学力向上に努めていく。

◇物事を最後までやり遂げてうれしかった経験がある児童の割合は極めて高い傾向にあります。これらの経験は、自らを高めすすんで役に立とうとする意欲の源であり、まわりの人と協力をして良好な人間関係を築くために必要だと考えます。一つ一つの行事や学習など自分たちでできることをしっかり考え、やり遂げることを通して自信をつけるという経験をこれからも重要視していく。また、引き続き、自分自身の価値を他人と比較するのではなく、自分自身を認め、まわりの人からも認められるという経験を一人ひとりが持てるよう道徳を中心とした教育活動の充実を図り、成功体験や達成感を味わえるように、今後ともご家庭と協力して取り組んでいく。

◇学校の決まりを守っていると答えた児童の割合が高い傾向となった。きまりを守ることや人として正しいことを行うことで、自分もまわりの人も安心して気持ちよく過ごすことができる実感が持てるようになったと評価している。今後、悲しい友達を作らない規律正しい学校となるよう取り組みを進める。

◇朝食を毎日摂取する事は、学習や活動を行う上で大切なことである認識を新たにし、児童の自律的な生活態度の確立に向けて、ご家庭の協力をお願いいたします。

◇いじめについての回答は、9割を超える児童がいけないことと回答をしている。いじめ根絶に向けて、道徳やその他教科を通して取り組みを進めていく。また、いじめ予防については、学校はいじめを許さないという強い意志を持ち、外部人材も活用しながら取り組んでいきたい。

今後とも本校の教育活動の推進、ならびに、児童の健全なる成長を促していくために保護者の皆さまのご理解、ご協力をいただきますよう、よろしくお願い致します。